

420) 金と銀とに輝いて 00.02.02.

金と銀とのろうばい蠟梅が 庭の片隅咲きました
父が愛したこの花は 冬を彩る花でした
淡い日差しをいっぱいに 吸い込むように花開き
寒さに耐えてふくいく馥郁と りちぎ律儀な父のようでした

金と銀との蠟梅が 寒さの中で咲きました
雪の便りを道連れに さきがけ魁て咲く花でした
春を待たずに花開き 春を待たずに匂いたつ
姉の命が揺らいでる どんより暗い午後でした

金と銀との蠟梅が 白いこゆき粉雪がつもるよに
涙の中でぼんやりと にじんで消えてゆきました
姉は還らぬ人となり 花は静かに散りました
甘い香りを置き去りに 凍えるように逝きました

金と銀との蠟梅が 春の光を告げてます
そっと開いてそっと散り 心に残る花でした
姉へのおも懐とい綴じ込めて 記憶の中でとわ永遠に咲き
花の生命は尽きるとも いまも優しく香ります

